

北中理科通信

令和2年5月1日金曜日

episode.1 『夏野菜を栽培してみよう』

第1回にも出てきました我が家の畑、脇芽だらけのブロッコリーは健在ですが、いよいよ夏野菜本番を迎えつつあります。そこで今回は、先日我が家でトマトとナスを鉢植えした様子を、載せたいと思います。

右の写真のような素焼きの鉢植えがあったので、それを使用しました。



このような鉢は、左のように中央に穴が空いています。このままだと土が落ちてしまうので、右のように石などで穴を塞ぎます。



今回植える苗です。左がナス、右がミニトマトです。両方とも、ナス科の植物です。



がんばって植えた結果が、右の写真です。これに水を撒いて完了です。時間としてはゆっくりやっても 30 分間くらいですかね。



今朝の新聞に、星野立子という俳人の、「五月来ぬ 心ひらけし 五月来ぬ」という俳句が紹介されていました。今日から 5 月です。新聞にも、「新緑の生命力に癒やされる美しい季節」と書いてあります。ちょっとでも「野菜栽培か～、やってみようかな～」と思った人は、是非鉢植えと苗を調達してきてください。鉢植えも安価なものでは数百円ですし、苗も 100 円程度で購入できます。問題は土ですが、園芸用品店に行けば、いくらでも売っています。「緑に癒やされる」だけではなく、是非自ら「生命力」を生み出し、育てようではありませんか。

今回はこの辺りで終わろうと思います。それでは皆さん、さようなら。

※ 「ぬ」というのは、現代（口語）文法では「打ち消し」の助動詞です。

この場合は、未然形に活用するので、「ぬ」の一語手前は「未然形」です。だから、「動く」は「動かぬ」になり、「来ぬ」は「こぬ」と読みます。

例： 俺は絶対にここを動かぬぞ。

ただ、古典（文語）文法では「完了」の助動詞になります。

例： 松田聖子の「風立ちぬ」。歌い出しは「風立ちぬ 今は秋 今日から私は 心の旅人」です。「ぬ」の手前の「立つ」が連用形「立ち」なので、おそらく「完了」の助動詞です。

「あ～風が吹いたわ、もう秋ね、私もあなたから旅立つわ」みたいなはずです。

つまり紹介した句を「来（こ）ぬ」と詠むか、「来（き）ぬ」と詠むかで、意味が変わってくるのです。ここで載せるにあたり、間違っただけではないと思い、専門家の方に問い合わせしてみました。すると、「元々俳句にルビがふってあるわけではないのです」とのことでした。「心ひらけし」の「し」が、古典文法「き」（過去）の連体形なので、多分「ぬ」も古典文法だと思うのですが、本当のところ、分かりません。ということで、もし前者ですと「5 月来ないなあ、早く来ないかな～」となり、後者ですと「5 月が来たぞー、心が開き晴れ晴れする 5 月来たぞー」みたいになるかもしれません。どちらにせよ、一つの句、一つの事柄に対し、受け取り側がどう思うか、それが問われるのだと思います。勉強になるなあ、と思いました。